



なごみ

Vol.30 2015 年春号

えきもん通信

◆特集
骨粗鬆症の診断

◆地域医療機関の紹介
西明内科消化器科医院

◆お知らせ
化学療法室開設
たんぽぽの会

◆退職にあたって

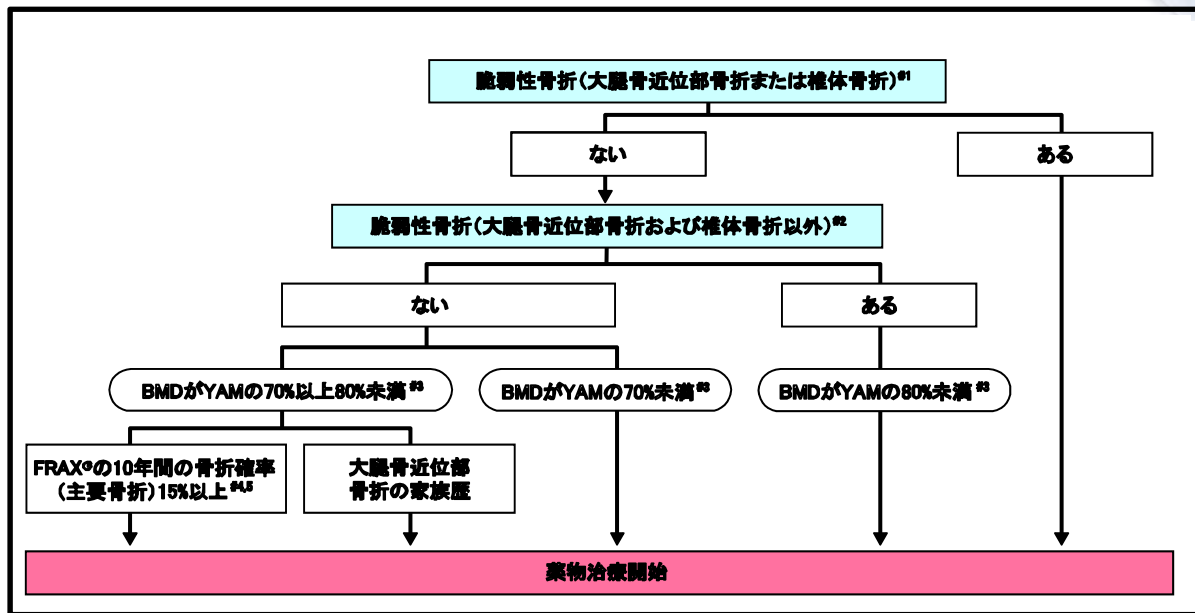
◆医療連携室から



えきさいかい
一般社団法人日本海員掖済会
門司掖済会病院

副院長・整形外科 原口 和史

WHOの定義では「骨粗鬆症は低骨量と骨組織の微細構造の異常を特徴とし、骨の脆弱性が増大し、骨折の危険性が増大する疾患」とされています。つまり、骨の強度が低下し、骨折しやすくなった状態のことです。日本骨粗鬆症学会の診断基準や薬物治療開始基準では脆弱性骨折、中でも椎体骨折または大腿骨近位部骨折の既往があれば、骨密度にかかわらず骨粗鬆症と診断し、治療開始が推奨されています(図1)。

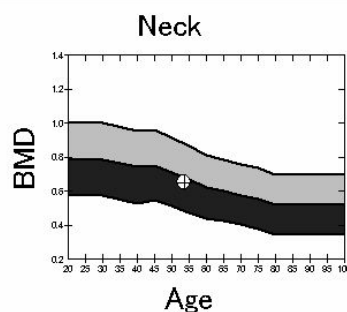
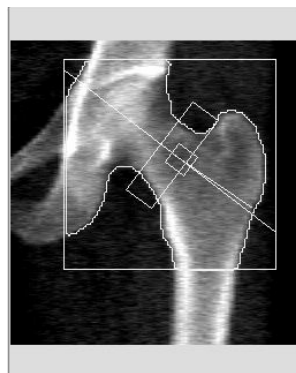
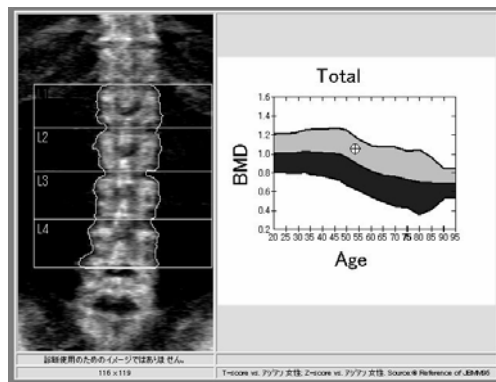


(図1) 原発性骨粗鬆症の薬物治療開始基準(2011)

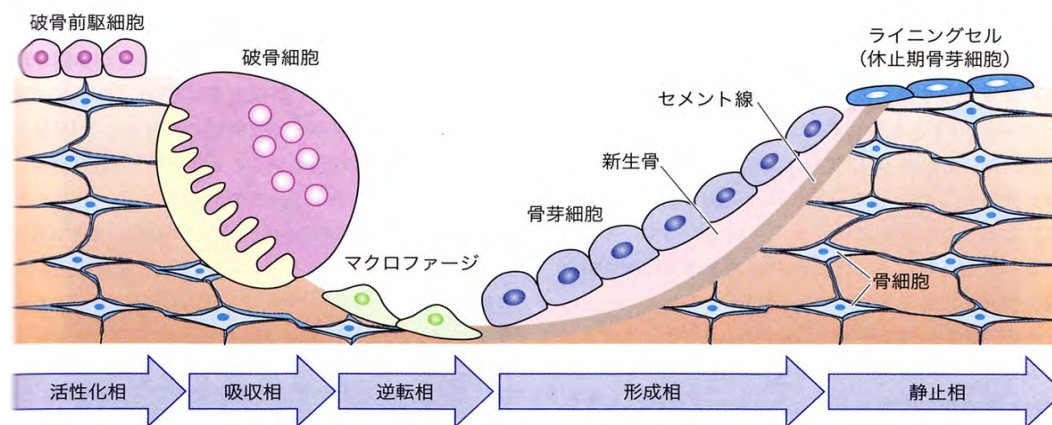
骨強度には骨密度が7割、骨質が3割関与するとされています。骨密度の測定は、日本やWHOの診断基準では、原則として腰椎または大腿骨近位部で測定することになっています。当院でも昨年8月に全身骨塩測定装置—DXA (Dual X-ray absorptiometry、Hologic 社 discovery)を導入、腰椎、大腿骨近位部での測定が可能となりました(図2)。骨密度の測定部位ですが、腰椎は主に海綿骨からなり、代謝回転が活発で骨密度の変化が表れやすく、治療薬の効果判定にも有用です。ただし、変形性脊椎症による骨硬化や大動脈石灰化による影響などもあり、測定値が高くなることも少なくありません。大腿骨頸部は75%が皮質骨で骨回転は緩やかです。(ちなみに検診などで使われる橈骨遠位1/3は95%が皮質骨とされ、骨密度が変化しにくく、治療効果の判定には不向きです。)いずれの部位も、脆弱性骨折の中でも発生頻度が高く、ADLのみならず生命予後にも影響する部位ですので、その測定は重要です。診断基準では両方を測定した場合には「より低い%値またはSD値を採用する」ことになっています。



(図2) Hologic 社 discovery



骨粗鬆症の検査では骨密度の測定だけでは十分とは言えません。骨では破骨細胞による骨吸収と骨芽細胞による骨形成が繰り返されています(図3)。ビスホスホネートの長期投与により骨回転が過剰に抑制されると骨質が劣化、歯科の先生方が心配する顎骨壊死(BRONJ: Bisphosphonate-Related Osteonecrosis of the Jaw)や非定型骨折の原因ともなりかねません。骨代謝マーカーの測定は今後の骨密度の動きの推測や薬の効果判定に有用です。また、骨回転が停滞しますと古く劣化した骨が増えてきますので、骨質の評価も期待できます。当科では日内変動や腎機能の影響が少ないマーカーとして、骨形成マーカーは P1NP、骨吸収マーカーは TRACP-5b を測定しています。



(図3) 骨代謝回転—骨の再構築(リモデリング)

DXAで全身をスキャンすることで骨密度だけでなく、筋量や脂肪量なども知ることができます。最近話題になっているサルコペニア(筋量減少症)の正確な診断には筋量の測定が不可欠です。

骨密度の維持増強には薬物療法だけでなく運動が必須です。また、骨粗鬆症の治療目標は脆弱性骨折の予防ですので、転倒防止なども重要です。その観点からすると、骨粗鬆症の治療には単に骨だけでなく、筋や関節を含む運動器全般へのアプローチが必要と言えます。当科では骨粗鬆症の診断治療だけでなく、筋量や運動機能を含めた運動器の全般的評価も行っております。

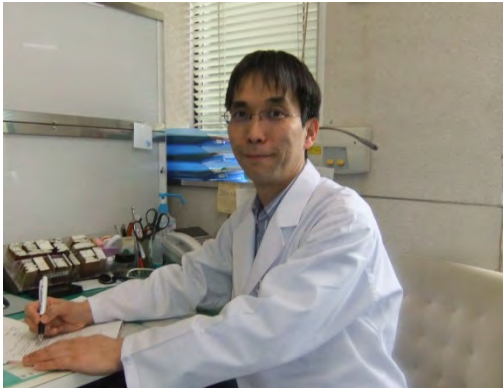
(連絡先: 連携室)

地域医療機関の紹介

医療法人西明内科消化器科医院

院長 西明 真 〒801-0864 北九州市門司区老松町10-17
電話 093-331-8686 FAX 093-331-8689

医師 診療時間	西明 真 ・ 西明 義晃 月・火・水・木・金曜日 9:00~12:00 14:00~18:00 水・土曜日 9:00~12:00
------------	--



門司掖済会病院の阿部院長をはじめとする先生方や、スタッフの皆様には、日頃から検査や治療、入院が必要な患者さんを紹介させて頂き、対応して頂きまして、誠にありがとうございます。

連携室の野口室長には、緊急時に困って電話をさせていただいた際も、いつも快く、適切に対応して頂き大変感謝しております。

当院は、父が約35年前に、門司港の老松公園のそばに開業し現在に至っております。診療内容は、高血圧、脂質異常症、感冒などの一般的な内科疾患や、消化器疾患（食道、胃、腸等）の診療や、がん検診、健康診断、訪問診療などを行っております。父によると門司港は、以前は人口が多く、大変活気があり、人口減少がここまで進むとは予想できなかったそうです。少子高齢化が進む今後の日本の最先端の状態ではないかと思われます。当院に来院される患者さんも、年々高齢化が進んでおられ、複数の疾患を持たれた方が多く、一人暮らしの方も多い状態です。訪問診療、往診も時々行っておりますが、在宅の患者さんの対応をする上で、門司掖済会病院のように、緊急時にも対応して頂ける病院が近くにあることは大変心強いです。

今後も一人一人の患者さんに対し、その方の生活も考えて、丁寧に対応していくよう努力しようと思っておりますが、当院にできることは限られております。

門司掖済会病院の皆様には、これからもご迷惑をおかけするとは思いますが、今後ともよろしくお願いいたします。



外来化学療法室開設

当院では2014年（平成26年）12月1日に化学療法室を設置しました。抗がん剤治療だけでなくリウマチ治療も行っており、患者様の生活環境にあった治療を安全に安心して受けていただけるよう努力していきます。また、今後は他施設からのご依頼も受けられるよう体制を整えてまいります。

■スタッフ 医師 外科医 1名 整形外科医 1名
看護師 5名（認定看護師 2名）
薬剤師 1名

■設備 外来化学療法室は全部で5床あり
各ベッドにはテレビが備えてあります。
別にサロンを設けており、患者さまが
より快適にリラックスして治療を
受けられる空間となっています。



掖済会病院患者会

たんぽぽの会



掖済会病院たんぽぽの会はがんの治療を受けている患者さまとその家族を中心に、平成24年に発足しました。どんな状況でも鮮やかな黄色いかわいい花を咲かせるたんぽぽは見る人をそっと笑顔にしてくれます。そんなたんぽぽのようにと患者さまのご家族が命名してくださいました。

当院にはがん化学療法、緩和ケアの認定看護師がおり、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践を行っています。また、がん患者さまの日頃のさまざまな相談にも応じています。年3～4回イベント行事を行っています。今回は2月28日に一足早いひな祭りの会を開催いたしました。茶道部員が参加してお点前、掖済会アンサンブルによるバンド演奏、看護師指導のもと、かぎ針を使って毛糸小物作りにそれぞれ挑戦しました。編み物は初めてという方も、かわいい花のブローチを作ることができました。今後も患者さまのご意見を取り入れながら、ますます楽しい会を続けていきたいと思っています。ご入会、行事への参加ご希望など、内科外来看護師隈河までお問い合わせください。



退職にあたって



32年間を顧みて

副院長・外科 平野 文明

平成27年3月31日をもって定年退職しますので、昭和58年4月に赴任してから32年になります。あっという間でしたが、当時4才と1才だった息子たちが30才を過ぎているのを見るとやはり長かったなあとも思います。これほど長くやってこられたのも諸先輩方、同僚、その間一緒に働いた皆様のご支援の賜と感謝しております。また、門司区外科会をはじめ医師会の皆様にも多くの患者様をご紹介いただきありがとうございました。

入局8年目に赴任したときは増田、新田先生がおられました。新田先生が昭和58年8月に退職されたのち、59年7月に若い三宅先生が加わり、60年6月には交代で荒木先生が赴任されました。平成元年7月から安部、久間、松崎、岩根、鈴木、永田、古橋の若手の先生が1～2年交代で来られ4人体制が続きました。平成11年7月安部先生が再赴任、増田先生が平成14年8月に退職され一時3人となりましたが、平成15年1月に再び古橋先生が加わり4人体制に戻りました。平成26年に荒木先生が退職されてから、現在は3人体制です。すべての先生と楽しく仕事ができて本当に良かったと思っています。

4月からは医局人事で卒後13年目の佐藤伸隆先生が加わり、安部先生、古橋先生と若いチームとなります。3人力を合わせて活気のある外科にして欲しいと願っています。皆様のご支援の程よろしくお願い申し上げます。

32年間を顧みますと、韓国・香港への病院旅行、掖済会病院対抗野球の大阪病院大会でのホームラン、青年の船の船医として看護師2名と訪問した中国北京、スポーツニッポン新聞社跡地に手術室や外科外来をどうするか検討を重ねて完成した新館、後藤先生を筆頭にみんなで頑張った機能評価認定病院獲得、医局長を9年間何とか務めたことなど楽しかったことや苦しかったことがいろいろと思い出されます。

最後に、門司掖済会病院の益々の発展と皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

長い間ありがとうございました。



還暦は過去に

副院長・腎センター 稲永 隆

幼い頃、太平洋戦争は過去のものと思っておりました。しかし、サンフランシスコ講和条約の年に生まれた私は、昭和史の中では戦後に近い時期を過ごしていたのだと、年をとってから思うようになりました。これまで大病を患うことなく生きてきて、還暦も過去のものとなり、今年の3月末で退職することになりました。

2004年11月に当院へ赴任しましたのがつい先日のような気がしておりますが、いつの間にか10年以上の歳月が流れ、国立循環器病センターの12年1ヵ月に次いで勤務期間が長い病院となりました。在職中、多くの方のお世話になりました。門司区の先生方には患者さんの診療の件で大変お世話になり、どうもありがとうございました。

また、一時期は門司区医師会の理事を仰せつかり、医師会活動を理解する貴重な経験となりました。

今後もしばらくは、心に安らぎを与えてくれる関門海峡の風景を眺めるのを楽しみに、週1回の外来を継続する予定ですのでよろしくお願い致します。



医療連携担当になりました

よろしくお願いします



副院長 内科 佐藤 薫

みなさまこんにちは。平成 26 年 4 月に内科へ赴任いたしました佐藤と申します。昭和 56 年卒で、内分泌・代謝なかでも甲状腺を専門にしています。また、医療連携担当の副院長をつとめていますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

門司港は「風の街」、冬の海峡をわたる風の強さにはおどろかされます。病院玄関前は鉄道記念館に挟まれてすさまじい風になり、前傾姿勢でないと進めないほどです。その向かい風は、あたかも現在の医療事情を反映したかのようでもあります。一方、病棟からの海峡の眺めはそれはそれは素敵です。特に晴れた日、深みのある群青の海の色には心癒されます。

門司区医師会の新年会は仕舞や日舞、バンド演奏そして最後、全員が手をつなぎおおきな輪になっての「お正月」など、噂にたがわぬ楽しい会でした。今後県がすすめる地域医療構想でも、この輪のように医師が連携して地域全体を支えることになるのでしょうか。当院も地域医療の一翼を担いたいと考えております。そのためにも病院スタッフ・医療連携室一同努力する所存です。先生がたからも率直なご意見、ご指摘をいただければ幸いです。

医療連携室・医療相談室

当院の医療連携室は平成 14 年 5 月に、部署名は診療連携室という名称で、専任事務一人で開設しました。その後 5 年目にして、平成 19 年 4 月待望の新卒社会福祉士が、医療ソーシャルワーカー (MSW) として配属されました。病診連携の業務も学んでもらい、相談業務に生かせるようになればという思いで、それぞれの立場を尊重し、すみわけをきちんとして連携業務に携わっております。今では、専任事務一人、MSW 3 人体制になっております。

TEL 093-321-1031 (直通)

FAX 093-321-1032 (専用)

ご利用下さい！

- ◆患者さまのご紹介窓口 (FAX・TEL)
- ◆患者さまに関する情報提供依頼、問い合わせ
- ◆担当医師とのアポ取り、連絡
- ◆お預かりした資料の返却に関すること
- ◆フィルム他資料の借用依頼
- ◆転院 (前方、後方)、施設入所に関する相談
- ◆在宅に向けての支援相談
- ◆介護保険に関する相談



MSW：八木 睦未

MSW：浅井 愛子

MSW：橋本 拓

室長：野口 美津江
(専任事務)

新館 1 階から本館 2 階へ
部屋が移動しました！



● よろしくお願ひします

内科(糖尿病) 北岡 千恵

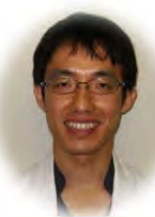
卒業：平成 20 年
趣味：電気屋巡り（家電医師！）



腎不全を未然に防ぎたく、糖尿病の道にすすみました。合併症予防の為に教育や指導をスタッフと共に頑張っていこうと思っています。

内科(腎センター) 嶋野 勝太

卒業：平成 21 年
趣味：家族



よろしくお願ひします。腎臓病の早期発見、治療、進行抑制から腎不全に対する代替医療まで何でもご相談下さい。

外科医長 佐藤 伸隆

卒業：平成 15 年
趣味：家族



熊本生まれの熊本育ちで、今回初めて福岡の勤務となりました。手術をバリバリして頑張ります。

整形外科 木村 敦

卒業：平成 21 年
趣味：筋トレ、テニス、水泳



整形外科全般にわたり診させていただきますので、よろしくお願ひします。

麻酔科部長 稲田 耕三

卒業：平成元年
趣味：ゴルフ、ウォーキング



救急と麻酔をやってきましたが、当院では麻酔科として頑張ります。行橋～別府 100 キロウォークを 4 回踏破し、体力には自信があります。

歯科口腔外科部長 児玉 正明

卒業：平成 14 年
趣味：映画、音楽



大学では口腔癌を専門にしてきました。一般病院は初めてです。手術等頑張っていこうと思っています。

● お世話になりました

● 外科 副院長 平野 文明

● 内科 副院長 稲永 隆

● 内科 松本 千沙

● 整形外科 川口 雅之

● 内科 海津 梓奈子

● 内科 牧 健次

● 歯科口腔外科 部長 山隈 正人

表紙

春は色々な花が咲き心とむ季節です。そんな華やかな中で、小さな命が芽生えている所をマクロレンズで撮影してみました。マクロレンズを使うことで今まで気づかなかった、生命の神秘を見ることが出来ます。 撮影 澄川 勇

編集後記

しばらくお休みしていました広報誌「なごみ」でしたが、新広報委員長のもと委員一丸となって新たな広報誌「なごみ」を発刊することになりました。皆様に色々な情報を発信し、もっと当病院を知っていただきたいと思います。

発行



一般社団法人日本海員掖済会
門司掖済会病院
〒801-8550
北九州市門司区清滝 1 丁目 3 番 1 号

<http://www.ekisaikai-moji.jp>

電話 093-321-0984（代表）
FAX 093-331-7085（代表）

